

## はじめに

広島大学初代学長森戸辰男先生の関係文書は、本学およびご遺族の間に存置され、後に、広島大学文書館をはじめ複数の機関に分散する形で収蔵されました。私は、平成10年(1998年)4月に設立された森戸文書研究会の代表として広島大学所蔵「森戸辰男関係文書」の整理、目録発行そして公開に携わりました。この過程で、新たな関係文書の寄贈を森戸富仁子夫人等から受けることができました。同時に、故木田宏氏(元文部事務次官)をはじめ、ご遺族および関係者の方々とお会いし、有形無形のご援助、ご助言等をいただきました。その際、多くの方々から森戸辰男関係文書が分散している現状について危惧の念を伝えられました。

平成16年(2004)年4月、広島大学文書館が設立され、同年11月5日の広島大学創立記念日に、「森戸辰男記念文庫」の創設を果しました。そして、現在に至るまで、諸方面のご協力を仰ぎながら、森戸辰男記念文庫の充実を図り、関係文書の収集・整理に努めてまいりました。こうしたなか、広島大学文書館以外で最大の森戸辰男関係文書を所蔵されている横浜市に対して協力をお願いしたところ、広島大学と横浜市との間で協定書が締結され、横浜市史編集室(現横浜市史資料室)所管の森戸辰男関係文書が本学に長期貸し出しされることとなりました。

『広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録』の解題でも紹介しましたように横浜市所蔵の「森戸辰男関係文書」は、本来、広島大学所蔵のものと一体の関係にあります。このため両方の関係文書が、同時に利・活用されてこそ初めて意味をなすものであり、本目録の発行および公開体制の整備が、その一助となるものと、私は考えております。こうした状況の変化を受け、本館といたしましても、さらなる森戸辰男記念文庫の整備・充実を通じて、研究基盤の充実を図るとともに、資料集の発行などを通じた公開や、自校史教育を通じた教育への反映、森戸辰男先生に関する研究のさらなる促進等を行うよう努力していく所存です。

なお、本目録の発行に至る過程において、実に多数の方々よりご協力を頂きました。文書の長期貸し出しにあたり、横浜市の梅津真一郎氏、川崎龍夫氏、久野淳一氏より多大のご尽力をいただきました。目録の作成にあたっては、文書館のスタッフ(小宮山道夫准教授、石田雅春助教)やアルバイトの学生諸君(高木泰伸、斎藤真璃、今本涼子、白沢祐紀、朝倉由貴、重政裕子の各氏)にお世話になりました。本目録の発行にあたっては、ニシキ・プリントの下川栄一氏のお世話になりました。

末筆ながら、この場を借りて改めて感謝の念を表します。本当に有難うございました。

平成22年3月

広島大学文書館

館長 小池 聖一

# 横浜市所蔵森戸辰男関係文書目録

## 目次

解題 (石田雅春)	.....	i		
凡例	.....	x		
1. 書類				
(1) 労働運動関係 (戦前)	MYA00100100	1		
(2) 労働運動関係 (戦後)	MYO00100100	5		
(3) 社会党関係	MYB00100100	9		
(4) 文部省関係	MYL00100100	31		
(5) 広島大学	MYK00100100	41		
(6) 教育関係	MYN00100100	50		
(7) 中央教育審議会	MYJ0001	95		
(8) ユネスコ	MYM00100100	130		
(9) 欧文資料	MYH00100100	145		
(10) その他	MYP00100100	197		
2. 原稿・メモ				
(1) 原稿類	MYC00100100	213		
(2) 原稿・メモ類	MYQ00100100	229		
3. 書翰				
(1) 書翰・葉書	MYE000100100	249		
(2) 葉書	MYF00100100	316		
(3) 通知・陳情・電報など	MYG00100100	336		
4. 新聞				
(1) 新聞切り抜き (戦前)	MYD00100100	345		
(2) 新聞切り抜き (戦後)	MYR00100100	348		
(3) 定期刊行物	MYT00100100	354		
5. 抜刷・小冊子			MYS00100100	361
6. 書籍				
(1) 書籍	MYI0001	381		
(2) 雑誌 (戦前)	MYD0001	402		
(3) 雑誌 (戦後)	MYI0001	404		
(4) 書籍類 (水濡固着分)	MYW0001	434		
7. 画像・映像				
(1) 写真・アルバム	MYU00100100	437		
(2) オープンリール・スライドなど	MYV00100100	446		
8. 物品			MYX00100100	449

# 解題

石田 雅春

## はじめに

本目録所収の森戸辰男関係文書は、横浜市史編集室（現横浜市史資料室）が所蔵しているものである。表1に森戸辰男関係文書の全体像を示した。表1からも明かなように、森戸辰男旧蔵の書籍は、森戸と縁のあった多数の機関が所蔵している。

一方、文書については、広島大学文書館と横浜市史編集室がその大半を所蔵している。広島大学文書館が所蔵している文書は、森戸辰男氏本人および富仁子夫人から寄贈されたものである。これに対して横浜市史編集室所蔵分は、森本松也氏（森戸辰男姉の息子）より寄贈されたものである。このように森戸辰男氏に関係する文書は、森戸家旧蔵のものと森本家旧蔵のものに二分されていた。これは森戸辰男氏が仕事の都合で転居を重ね、長期にわたる借家での生活を余儀なくされたことに起因する。すなわち転居の過程において、新居で収蔵できなかった文書が森本家に預けられていったのである。このため広島大学文書館と横浜市史編集室が所蔵する史料は、本来は一つの史料群であり、両者は密接な関係にある。

さて、横浜市史編集室所蔵の森戸辰男関係文書の概要および位置づけについては、すでに田崎公司氏、羽田貴史氏、小池聖一氏によって明らかにされている<sup>\*1</sup>。このため本解題

表1 森戸辰男関係文書の所蔵状況

分類	所蔵機関	概要
書籍	広島大学図書館	和図書 2,942 点、洋図書 3,127 点、パンフレット 1,712 点、和雑誌 93 種、洋雑誌 52 種など
	横浜市史編集室	図書など 1,087 点、雑誌 1,774 点
	広島修道大学	和図書 580 点、洋図書 300 点
	日本女子大学	洋図書 45 点、洋雑誌 1 種
	獨協大学	洋図書 22 点、洋雑誌 2 種
	国立国会図書館	和図書 134 点
	法政大学大原社会問題研究所	約 100 冊
	労働科学研究所	和図書 596 点、洋図書 178 点、和雑誌 120 種、洋雑誌 15 種、パンフレット 141 点など
文書	富士政治大学校	和図書 933 点、和雑誌 10 種など
	広島大学文書館	広島大学旧蔵文書 13,655 点、森戸富仁子寄贈文書 8,714 点、檜山家文書 143 点
	横浜市史編集室	森本松也寄贈文書 11,192 点
	法政大学大原社会問題研究所	櫛田民蔵書翰 80 通、久留間鮫造書翰 21 通
遺品等	ふくやま美術館	日記等
	広島大学文書館	書画、写真、テープ等
	横浜市史編集室	写真、テープ等 402 点
	ふくやま美術館	叙勲関係、写真、書画等

出典：小池聖一「解題」（『広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録』上巻所収）をもとに作成。

では説明の重複を避け、同文書が横浜市から広島大学へ長期貸し出しされた経緯、整理の方法など、本目録の成立を理解する上で必要な情報についてまとめることとする。

## 1. 横浜市との合意形成の経緯

広島大学所蔵の森戸辰男関係文書については、平成7年より森戸文書研究会（広島大学の有志の研究者による組織）が整理を進めてきた。こうした一連の作業の結果、平成14年には目録を刊行することとなった<sup>2</sup>。

一方、広島大学内では、広島大学50年史編集室を母体として文書館を設立しようという構想が持ち上がり、平成16(2004)年4月1日に広島大学文書館が設置されることが正式に決定された。この広島大学文書館の制度設計の中心に、森戸辰男初代学長の関係史料を「文庫」として整備し、その功績を長く記念することが据えられていた<sup>3</sup>。

このように広島大学における森戸辰男関係文書の整理、および保存環境の整備が着実に進められて行くにともない、関係者の間では横浜市史編集室所蔵の森戸辰男関係文書についても何らかの形で収集し、「森戸辰男記念文庫」をより完全なものにしたいという希望が強まっていった。

こうした状況を受け平成14年6月5日以降、広島大学と横浜市の間において森戸辰男関係文書の長期貸し出しに向けた折衝が行われた。その結果、平成15年11月5日の段階で、大筋において両者の間で合意が成立した。ただ、その後、横浜市議会の開催、横浜市の担当課長の交代等があり、細部の条件についての交渉は停滞することとなった。このため細部の条件において両者が最終的な合意に達したのは、平成17年に入ってからのことであった。

そして平成17年4月1日に広島大学と横浜市の間で「森戸辰男関係文書の相互利用に関する協定書」が締結された。同時に「森戸辰男関係文書の貸出手続等に関する覚書」と「森戸辰男関係文書の公開方法等に関する覚書」が横浜市総務局と広島大学文書館との間で交わされた。

こうして広島大学文書館での一般公開を前提として、横浜市より森戸辰男関係文書の長期貸し出しが行われることとなった。その際に①広島大学が経費を負担して貸し出し文書の複製（マイクロフィルム）を事前に作成すること、②公開にあたっては原本ではなく、①で作成した複製をもっておこなうこと、が取り決められた。

## 2. 協定の締結から文書の受領まで

協定の締結を受け、横浜市は複製（マイクロフィルム）を作成するための準備に着手した。こうしたなか横浜市は、平成17(2005)年6月27日付で広島大学文書館に次記のような作業を進めていることを連絡してきた。

- ①同分野の史料がまとまるように箱番号の修正を行うとともに、箱の詰め替えを行った。
- ②封筒に記載されている資料番号と目録カードの資料番号について、修正履歴が不明で番号を特定しづらいものがあつたため、資料の特定が明確になるように不要番号の削除等の作業を行っている。
- ③マイクロ撮影の業者の負担を減らすため、腐食したホッチキスの芯やクリップを除

去し、プラスチッククリップに変更する作業を行っている。

こうした事前作業を経て、横浜市側が委託した業者によってマイクロフィルムの撮影が行われた。そして業者からマイクロフィルムが横浜市に納入されたことを受け、平成 18 年 3 月 31 日に横浜市史資料室より広島大学文書館へ文書の移送が行われたのであった。

### 3. 横浜市による整理の概況

後述するように本目録は、横浜市史編集室の仮整理を基礎として目録作成をおこなった。そこでまずは、横浜市の仮整理の概況について述べることにする。横浜市史編集室所蔵の森戸辰男関係文書は、昭和 55(1980)年に森本松也氏から寄贈を受けたものである。その後、昭和 62 年に三宅明正氏によって第一次の仮整理が行われ、平成 6(1994)年から本格的な整理が着手された。こうした作業を経て平成 10 年から平成 13 年にかけて、その目録の一部が刊行された<sup>4)</sup>。しかし、詳細な事情は不明であるが、その後目録の刊行は中断されてしまった。

そこで長期貸し出しの交渉過程において広島大学文書館は、こうした整理状況について横浜市側に照会を行った。しかし整理当時の事情の分かる職員が物故または退職していたため、横浜市側としても全体の状況を把握しかねていることが明らかになった。

このため整理作業の着手に先立ち広島大学文書館は、横浜市史編集室による整理状況を独自に確認した。表 2 (次頁掲載)に横浜市から送付された段階での史料の一覧を示した。前節で述べた横浜市の整理の結果、A~V の分類ごとに箱が配列されていることが分かった。また、その一部が、目録として刊行されていることが分かった。

しかし、その一方で箱番号 169~172 の箱が未目録の状態に留まるなど、整理の進行状況に差が見られた。また、箱番号 15 の文書については、もともと刊本(分類 I)として仮整理されていたもののうち、戦前の労働運動に関するもののみを抽出して別置き、番号を付け替えたものである。このため刊本(分類 I)は、欠番が生じた状態にあった。

さらに詳細に見て行くと分類こそ整然としているが、実態は仮整理の状態にとどまっていることが判明した。たとえば教育に関する史料は、中教審関係(分類 J)、広島大学関係(分類 K)、文部省関係(分類 L)、教育関係(分類 N)と一応は仕分けされていた。しかし中教審関係(分類 J)に大学設置審議会、国立大学協会、能研テストなどの文書が含まれていた。一方で、教育関係(分類 N)に「期待される人間像」や「教科書制度の改善に関する答申」など中教審の史料が多数含まれており、内容的に錯綜していた。

また、横浜市が整理に着手する前の史料の状態(原秩序)についても、横浜市から受領した資料からは不明であった。森戸辰男氏の秘書を務めた西村博氏の証言によると、森戸は関連する書類を封筒に詰めて分類・保管していた<sup>5)</sup>。広島大学所蔵の森戸辰男関係文書の整理にあたっては、この封筒を基本的な単位と見なして作業を進めた。

しかし横浜市所蔵の森戸辰男関係文書では、この封筒から文書を取り出して整理したと思われるものが見受けられた<sup>6)</sup>。特に中教審関係(分類 J)については、年代ごとに文書自体が並べ替えてあった。この任意の文書配列をもとに横浜市史編集室では資料番号をつけ直していた<sup>7)</sup>。この点に関して横浜市からの提供データでは、J-1 から J-978 という新しい資料番号しか残されおらず、原秩序の復元が困難な状況にあった。これはおそらく事前整理によって仮整理の番号が「不要番号」として削除されたことに起因すると推定される。

表2 横浜市所蔵森戸辰男関係文書一覧(広島大学文書館移送時)

箱No	箱タイトル	分類	資料番号	備考
1	戦前期社会労働運動関係	A	1~38	所在目録7集所収、欠番(31)
2	戦後日本社会党創立期関係	B	1~43	所在目録7集所収
3	戦後日本社会党創立期関係	B	44~100	所在目録7集所収
4	戦後日本社会党創立期関係	B	101~106	所在目録7集所収
5	戦後日本社会党創立期関係	B	107~127	所在目録7集所収、欠番(107、117)
6	戦後日本社会党創立期関係	B	128~187	所在目録7集所収、欠番(136、150)
7	戦後日本社会党創立期関係	B	188~197	所在目録7集所収
8	原稿類1	C	1~30	所在目録7集所収
9	原稿類2	C	31~58	所在目録7集所収
10	原稿類3	C	59~74	所在目録7集所収
11	原稿類4	C	75~91	所在目録7集所収
12	原稿類5	C	92~100	所在目録7集所収
13	原稿類6	C	101~139	所在目録7集所収
14	新聞類1	D	1~19-29	所在目録7集所収
15	新聞類2	D	140、709~720、1355、1381-1、1273	所在目録7集所収
16	書簡1	E	1~269	所在目録8~10集所収
17	書簡2	E	270~500	所在目録8~10集所収、欠番(367、405、406、409、411~414、418、472、494、495、500)
18	書簡3	E	501~700	所在目録8~10集所収、欠番(552、556、580、591、600~602、617、626、631、634、641、645、648、649、654、662、665、667~669、672~675、677)
19	書簡4	E	701~950	所在目録8~10集所収、欠番(710、714、718~720、723~726、728、731、732、734、735、737、738、742~744、749、752、754、756、762、844、851、861~864、931、932、946、947)
20	書簡5	E	951~1200	所在目録8~10集所収、欠番(985、988、1008~1010、1012、1017~1019、1045、1046、1049、1051、1053~1056、1060~1063、1065~1069、1075~1077、1094、1105、1108、1109、1112、1113、1119、1126、1128、1132~1134、1136、1143、1165、1192、1193)
21	書簡6	E	1201~1450	所在目録8~10集所収、欠番(1201~1203、1210、1213~1215、1239、1247~1252、1260、1264、1266~1268、1270~1272、1296、1297、1303、1304、1306、1328、1335、1339、1358、1389、1414、1429、1430)
22	書簡7	E	1451~1700	所在目録8~10集所収、欠番(1474、1475、1477、1481~1483、1485、1488、1490、1493、1496~1500、1502、1504、1509~1511、1514~1517、1520~1522、1524、1526、1527、1529、1530、1540、1549、1550、1552、1561~1563、1576、1595、1660~1669、1690)
23	書簡8	E	1701~1924	
24	葉書	F	1~588	
25	通知類	G	1~171	
26	欧文資料1	H	1~69	所在目録10集所収
27	欧文資料2	H	70~199	所在目録10集所収、欠番(195)
28	欧文資料3	H	200~449	所在目録10集所収、欠番(293、370)
29	欧文資料4	H	450~605	所在目録10集所収
30	欧文資料5	H	606~638	所在目録10集所収
31~109	刊本1~79	I	1~1586	欠番あり(分類Dに移動)
110	中教審関係1	J	1~110	
111	中教審関係2	J	111~360	
112	中教審関係3	J	361~513	
113	中教審関係4	J	514~640	
114	中教審関係5	J	641~871	
115	中教審関係6	J	872~978	
116	広島大学1	K	979~1129	実際には箱別の通番

箱No	箱タイトル	分類	資料番号	備考
117	広島大学2	K	1130~1238	実際には箱別の通番
118	文部省関係1	L	1~42	
119	文部省関係2	L	43~52	
120	文部省関係3	L	53~89	
121	ユネスコ関係1	M	1~27	
122	ユネスコ関係2	M	28~62	
123	ユネスコ関係3	M	63~110	102は箱No.173に別置
124	教育関係1	N	1~13	
125	教育関係2	N	14~46	
126	教育関係3	N	47~67	
127	教育関係4	N	68~98	
128	教育関係5	N	99~120	
129	教育関係6	N	121~171	
130	教育関係7	N	172~199	
131	教育関係8	N	200~237	
132	教育関係9	N	238~274	
133	教育関係10	N	275~314	
134	教育関係11	N	315~356	
135	教育関係12	N	357~375	
136	労働関係	O	1~26	
137	その他資料1	P	1~26	
138	その他資料2	P	27~37	
139	その他資料3	P	38~95	
140	その他資料4	P	96~118	
141	その他資料5	P	119~171	
142	その他資料6	P	172~226	
143	原稿・メモ類1	Q	1~75	
144	原稿・メモ類2	Q	76~110	
145	原稿・メモ類3	Q	111~204	
146	原稿・メモ類4	Q	205~270	
147	原稿・メモ類5	Q	271~297	
148	原稿・メモ類6	Q	298~327	
149	原稿・メモ類7	Q	328~384	
150	新聞切抜1	R	1~59	
151	新聞切抜2	R	60~113	
152	抜刷・小冊子類1	S	1~22	
153	抜刷・小冊子類2	S	23~51	
154	抜刷・小冊子類3	S	52~62	
155	抜刷・小冊子類4	S	63~75	
156	抜刷・小冊子類5	S	76~97	
157	抜刷・小冊子類6	S	98~110	
158	抜刷・小冊子類7	S	111~135	
159	抜刷・小冊子類8	S	136~217	
160	抜刷・小冊子類9	S	218~280	
161	抜刷・小冊子類10	S	281~350	
162	抜刷・小冊子類11	S	351~392	
163	抜刷・小冊子類12	S	393~428	
164	定期刊行物1	T	1~36	
165	定期刊行物2	T	37~80	
166	写真・アルバム1	U	1~7	
167	写真・アルバム2	U	8~21	
168	テープ・フィルム類	V	1~39	
169	書籍類1	W	—	未目録
170	書籍類2	W	—	未目録
171	書籍類3	W	—	未目録
172	現物資料	—	—	未目録
173	ユネスコ関係	M	102	大型資料

なお、横浜市からの連絡によれば、マイクロフィルムの撮影のために腐食したクリップ等を除去し、プラスチック製のクリップに付け替えているとのことであった。しかし実際には、大半の文書にプラスチック製のクリップがついておらず、本来の形態が不明なものがあった。(こうした記録を残さない形状の変更が、マイクロ撮影の際か、それ以前の段階で行われたのかは不明である。)

#### 4. 広島大学文書館による整理作業

上記のような状況を踏まえ、平成 18(2006)年 4 月 1 日より広島大学文書館では、公開に向けた整理作業に着手することとなった。しかし技術的にいくつかの制約が課せられることとなった。第一に横浜市の仮整理の状態でもマイクロフィルムを撮影し、それをもとに

表 3 森戸辰男関係文書(横浜市史編集室所蔵)分類一覧

大分類	小分類	目録番号	史料点数
1. 書類	(1) 労働運動関係(戦前)	MYA00100100	85
	(2) 労働運動関係(戦後)	MYO00100100	102
	(3) 社会党関係	MYB00100100	776
	(4) 文部省関係	MYL00100100	303
	(5) 広島大学	MYK00100100	264
	(6) 教育関係	MYN00100100	1,388
	(7) 中央教育審議会	MYJ0001	978
	(8) ユネスコ	MYM00100100	426
	(9) 欧文資料	MYH00100100	1,075
	(10) その他	MYP00100100	558
2. 原稿・メモ	(1) 原稿類	MYC00100100	540
	(2) 原稿・メモ類	MYQ00100100	678
3. 書翰	(1) 書翰・葉書	MYE000100100	2,023
	(2) 葉書	MYF00100100	781
	(3) 通知・陳情・電報など	MYG00100100	237
4. 新聞	(1) 新聞切り抜き(戦前)	MYD00100100	87
	(2) 新聞切り抜き(戦後)	MYR00100100	152
	(3) 定期刊行物	MYT00100100	210
5. 抜刷・小冊子		MYS00100100	529
6. 書籍	(1) 書籍	MYI0001	1,021
	(2) 雑誌(戦前)	MYD0001	39
	(3) 雑誌(戦後)	MYI0001	1,735
	(4) 書籍類(水濡固着分)	MYW0001	66
7. 画像・映像	(1) 写真・アルバム	MYU00100100	333
	(2) オープンリール・スライドなど	MYV00100100	64
8. 物品		MYX00100100	5

※点数は、本目録作成の際に確認された現物の数値を記載した。



資料の公開を行うよう取り決められたことである。当然ながらこのマイクロフィルムには、横浜市の資料番号が附されて撮影がなされた。

このため文書の目録を年代ごと、または内容ごとに再配置し、横浜市の仮整理の秩序を変更すると、必然的にマイクロフィルムと原文書との対照関係が不明確となり、その利用が著しく困難なものになると予想された。そこで横浜市の仮整理に従い、採録作業を行うこととした。ただ、横浜市の分類が形態と内容を混在させた形で行っていたため、箱レベルではあるが、表3のように形態—内容の二階層となるように再編成した。

第二に腐食したクリップなどが除去された状態であったため、本来の綴じ方や文書の順番が不明なものがあった。これらについては、①原状が明確に分かるものについては紙製のクリップなどで留め直す、②不明なものは現在の状態をそのまま採録し、綴じの情報については記載しないという方法を取った。また、横浜市の整理では事務用の角2封筒に史料が詰めてあったため、これを中性紙製の保存用封筒に取り替えた。

なお、重複する点もあるが、整理に当たって判明したことがらを各分類別に整理し、表4に示したので参照していただきたい。

表4 目録作成にあたっての留意点

分類	特記事項
A	横浜市史編集室の資料番号 A31（広島大学文書館の MYA03100100 目録番号）に該当する文書は、現物が無かった。当文書は『横浜市史資料所在目録』第7集にも記載されておらず、詳細は不明である。
D	戦前の新聞切抜と雑誌（主として大原社研関係）から成り立っている。雑誌については、6.書籍(分類 I)より現物を抽出したものである。双方の対照関係を明らかにするため、横浜市史編集室の資料番号を目録番号とした。
E	表2からも明かなように計207点の欠番が存在する。このうち27点については、目録刊行後に史料を移動していたことが判明した。これらについては、欠番のか所に移動先の番号を記載した。 また欠番のなかには、平成11年に撮影されたマイクロフィルム（広島大学の小池聖一氏が業者に発注）に存在が確認されるものの現物が無いものが7点あった。これについては、欠番のか所に件名、年月日などマイクロフィルムから判明した書誌情報を記載した。 残り173点の欠番については、一切の事情が不明である。なお、『横浜市史資料所在目録』において資料番号280とされている書翰は、正しくは資料番号1280番のものである。
F	書翰のうち葉書がFに分類されていた。しかし分類Eの後半にも多数の葉書が採録されている。このように葉書を二つに分類した基準は不明である。
G	横浜市史編集室の資料番号 G165 と G166 に未使用の葉書および空の封筒が採録されていた。史料価値が低いことを鑑み、G167～G171を先にして、これら2点を MYG17000100、MYG17100100 として末尾に回した。
I	書籍と雑誌が混在した状態で整理されていた。そこで目録上両者を分割して掲載した。このため一部目録番号が前後している。

	また、横浜市史編集室の整理により、戦前の一部の雑誌が分類 I より抽出され、分類 D に移し替えられた。このため欠番が生じている。
J	原秩序を一定程度反映したと推定される仮整理の番号が、史料を入れた封筒に残されていた。そこで原秩序を明らかにするため、横浜市史編集室の資料番号と併記することにした。また、目録が煩瑣になるのを避けるため、広島大学文書館による目録番号をあえて附さなかった。 ただ、羽田氏による仮整理の番号は、前掲『中央教育審議会と大学改革』にも説明がなく整理基準が不明である。
K	横浜市からの引き渡し目録によると、中教審関係（分類 J）から連続して通し番号が附されていることになっていた。しかし実際には整理箱別に通し番号が附されており、関連性は見出せなかった。そこで独自に目録番号を附した。
P	未目録資料（分類 W）の目録を最後につけた。目録番号 MYP20600100 から以下の文書がこれに該当する。また目録番号 MYP17400100 から MYP20500100 については、空の封筒、未使用原稿用紙、表紙の断簡、綴じ紐などが順不同で採録されていた。史料的价值が低いことを鑑み、この部分だけ内容別に順番を入れ替えて採録した。
W	水濡固着のため採録されていなかった。これらの史料のうち、判読可能なものを採録した。書籍と雑誌については分類 W を新設し、大分類「6.書籍」で掲載した。書類については、点数が少ないこと、雑多な内容であることを踏まえ、その他（分類 P）の末尾に加えた。

## おわりに

以上、横浜市史編集室所蔵の森戸辰男関係文書の整理過程を概観した。同文書は、広島大学文書館所蔵の森戸辰男関係文書と対の関係にある。両文書を整理し、同時に公開することは、森戸辰男に対する研究のみならず、戦前・占領期の労働運動や戦後の文教政策史の研究に裨益することが大である。

ただ、上述のような事情により、本目録は特殊な整理の方法をとっている。この点については、今後逐次改善を図る予定である。このため当分の間、利用者各位には不便を強いることとなるが、史料の早期公開を優先する立場からご海容を乞う次第である。

## 注

\*1 田崎公司「横浜市史編集室蔵「森戸辰男」資料の現状」『大原社会問題研究所雑誌』（475号、平成10年）、羽田貴史他『中央教育審議会と大学改革』（高等教育研究叢書55、広島大学大学教育センター、平成11年）、森戸文書研究会編『広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録』（上・下、広島大学・松下視聴覚教育研究財団、平成14年）参照。

\*2 前掲森戸文書研究会編『広島大学所蔵森戸辰男関係文書目録』。

\*3 「広島大学文書館の設置関係文書」『広島大学史紀要』第5号、広島大学50年史編集室、平成15年3月）参照。

\*4 『横浜市史資料所在目録—近・現代—』第7、8、9、10集、横浜市、平成10~13年。整

理の経緯については、前掲田崎論文参照。

\*5 西村博「森戸辰男氏と広島大学」『広島大学史紀要』第1号、平成11年3月、広島大学50年史編集室。

\*6 この点について田崎氏は「何時の時点かに袋から出され空封筒になってしまったものや入れ違えたもの紐がほどかれた状態になってしまったものが多数みうけられた」としている（前掲田崎「横浜市史編集室蔵「森戸辰男」資料の現状」参照）。

\*7 この史料は、羽田貴史氏（当時広島大学、現東北大学教授）が一次整理にあたっており、その際の整理用封筒が残っていたため判明した。ただ、羽田氏の整理も「場合によっては、封筒内の資料の入れ替えを一部行いながら、おこなった。すなわち、封筒内の資料をまず取り出し、相互の関連を推定しながら時系列に沿って並べ替え、明白に他の封筒の資料と関連性の高い場合には、他の封筒に移した」というものだった（前掲羽田他『中央教育審議会と大学改革』4頁参照）。このため、どの段階でどのように史料の原秩序が損なわれたのか、特定ができない。

## 凡 例

- 1.本目録は、平成 17 年 4 月 1 日に締結された「森戸辰男関係文書の相互利用に関する協定書」に基づき、横浜市から広島大学に長期貸し出しされた森戸辰男関係文書の目録である。
- 2.本史料の所有権は横浜市に属するが、史料の保存・公開について広島大学文書館が行うこととなった。
- 3.「森戸辰男関係文書の公開方法等に関する覚書」に基づき、史料の公開は基本的には複製（マイクロフィルム）によって行う。
- 4.本目録に採録した史料の中には、国籍・職業・身体・性別等による差別的表現・記述や、プライバシーを侵害する可能性のある記述がある。しかし、歴史的事実を正確に記録し、かつ科学的な歴史研究を推進することによって、基本的人権の擁護を図ることを目的として採録した。史料の利用に当たっては、この趣旨を理解された上で調査・研究に役立てることをお願いしたい。
- 5.「1.書類」、「2.原稿・メモ」、「3.書翰」、「4.新聞」、「5.抜刷・小冊子」までの目録の各項目は次の通りである。

### (1) 目録番号

解題でも紹介した通り、本目録では、横浜市史編集室の資料番号をもとに目録番号を附した。目録番号の階層は以下の通りである。

(例)

MY    A    001    001    00

史料群   分類   封筒番号   文書番号   枝番号

このうち分類と封筒番号が、横浜市史編集室の資料番号に該当する。このため分類によっては封筒が存在せず、封筒番号が文書番号となっているものがある。

なお、番号の付け替えによる混乱を避けるため、中央教育審議会（分類 J）は横浜市史編集室の資料番号と羽田氏による仮整理の番号をそのまま並記した。

### (2) 件名

件名は表題や文書名などを採録した。原文書からそのまま使用したものは「   」書きとした。採録者の判断で仮題を附したものはそのまま表記した。

### (3) 年月日

和暦で統一した。推定で附したのものには「〇〇か」とし、消印から採ったものには（   ）書きとした。

### (4) 作成（発信→受信）

判明するものは可能な限り採録した。書翰など発信と受信のあるものについては、「→」で表現した。推定で附したのものには「〇〇か」とした。また、連名の場合は、適宜省略して「他〇〇名」などとした。

(5)形態

基本的に用紙の大きさ（B4、A4、〇〇×〇〇cm等）、紙質（洋紙、わら半紙、タイプ用紙等）、数量、記述・記述の方法（黒ペン書、和文タイプ、コピー等）、とじ方（ホッチキス、クリップ等）を可能な限り採録した。

(6)備考

書き込み等、他の項目で採録できなかった事項のうち、文書の性格を理解する上で必要と思われるものを採録した。

6.「6.書籍」の目録の各項目は次の通りである。

(1)目録番号

横浜市史編集室の資料番号をもとに目録番号を附した。目録番号の階層は以下の通りである。

なお、枝番号の必要な場合は、目録番号の末尾に適宜「-00」と表記した。

(例)

MY     A     0001  
史料群 分類 文書番号

(2)件名

件名は書名を採録した。採録者の判断で仮題を附したものは[ ]書とした。

(3)巻号数

雑誌については、同項目を設けて巻数・号数を記載した。書籍については、同項目を設けず件名または備考に記載した。

(4)編著者

著者、編者、訳者について記載した。

(5)発行

発行者を記載した。

(6)年月日

和暦で統一した。推定で附したのものには「〇〇か」とした。

(7)備考

書き込み等、他の項目で採録できなかった事項のうち、史料の性格を理解する上で必要と思われるものを採録した。

7.「7.画像・映像」、「8.物品」の目録は、「1.書類」などの書式に準拠した。